

## 岡山大学「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成プロジェクト」キックオフシンポジウムに参加しました

平成26年2月18日(火)に岡山大学鹿田キャンパス Jホールにて開催された「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」プロジェクトキックオフシンポジウムに参加しました。当センターと同様、文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業に採択されたプロジェクトです。



第1部は岡山大学の山本進一理事、岡山大学病院の榎野博史院長による主催者挨拶、岡山県保健福祉部の伯野春彦部長の挨拶に始まり、文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐の岩瀬鎮男氏より「『地域を支え地域を科学する総合診療医の育成』に期待すること」と題して講演がありました。医療を取り巻く環境や、医師養成の在り方が時々刻々と変化する中で、次世代GPによる総合診療医の育成が重要視されていることが協調されました。

第2部では岡山大学のGPプロジェクト概要について、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座の片岡仁美教授より説明がありました。また、設置される各コース、クリニカルGPコース、アカデミックGPコース、MPH(Master of Public Health)コースの概要について、各プログラム責任者の先生より説明がありました。中でもMPHコースは全国8番目の設置であり、今後エビデンスを創出するために公衆衛生学的視点を持った総合診療医を養成することを重要視しているとのことでした。



第3部はGIMディスカッションと題して、総合診療医を養成する大学側、研修・実習を受け入れる地域医療病院側、さらに研修・実習を経験した若手医師、地域卒学生の立場から発言がありました。岡山県内では各地で地域医療病院間の連携が強く、そういった場所に若手や学生を参加させることで、医療連携や協調の在り方を学び、地域で働くモチベーションを高めているというお話がありました。また学生の間でも、地域卒の学生が地域で学んできたことを一般卒の学生にも伝えることで、一人でも多くの学生が地域医療への関心を持てるようにと工夫を重ねている、というお話もありました。

他地域での取り組みを聞くことで、当センターの活動にも何か活かせることはないだろうか考える良いきっかけになりました。

